

巻頭言

## 第6回「組合員の暮らしと仕事に関するアンケート」調査を終えて

平山 清一（センター事業団埼玉事業本部副本部長／「くらしのアンケート」評価検討委員会委員長）

新型コロナウイルス変異株の発生による感染者の急激な増加が問題となる中で、3度目の「緊急事態宣言」が発出されることになった。ゴールデンウィークの期間、外出自粛のお願いや休業要請の対象拡大など「まん延防止等措置」よりも一段階厳しい措置が取られたが、人の流れが減少し感染者が抑えられてきたとは言いがたい状況である。このような状況下であって、開催日までまもなく2か月となる東京オリンピックの開催ははたして可能なのか。日本のみならず世界の人々の夢や希望を叶えることに繋がる祭典が実現できるのだろうか。日本政府が開催へ楽観的な観測を繰り返すことで、人びとの不満と不信がますます膨らみ疑心暗鬼からの不安が私たちの心を覆いつつあるように思う。

新型コロナウイルスが世界中を襲い、様々な産業や仕事を直撃し、失業や倒産などが急速に広がっている。非正規雇用で働いていた多くの人々が真っ先に仕事を失い、深刻な「生活苦」に陥り、貧困が大きな社会問題として可視化されるようになった。

2020年12月4日参議院本会議で、長年の念願であった労働者協同組合法が全会

一致で可決・成立した。この法律は、人間が尊厳と誇りをもって主体的に働く「協同労働」の目的と意義を掲げている。施行までの期間に我々は何をなすべきか。協同労働の目的と意義をあらためて確認して、地域に、社会に対して自信をもって説明できるスキルと高い意識が求められる。

今回の第6回「組合員の暮らしと仕事に関するアンケート」の実施とその回答から、協同労働の現場で働いている組合員の暮らしの実情、抱えている課題をあらためて明確にしたいと考えた。そして、アンケート結果の報告を働く仲間たちと共有することで、組合員一人ひとりが尊厳をもって主体的に働いていく協同労働の働き方(生き方)をどのように実現していけばいいのか、みんなで一緒に考えていく手助けになることを期待した。

今回のアンケート調査の実施及び評価に関しては、コロナ禍の影響もあり、回収と分析・検証、報告のまとめに想定以上に月日を要してしまった。アンケートに協力いただいた組合員みなさんにはこの場を借りてお詫び申し上げたい。

ただ、アンケートの回答からは、たとえば協同労働の現場で働くことの意識、組合員どうしの人間関係、家族や近隣と

の関係や介護や子育てなど生活上の課題、自己の心身の健康に関する問題、仕事と生活の満足度・幸福度等々、組合員の問題意識、抱えている不安や検討すべき課題をリアルな事柄として抽出できたと考えている。

このアンケート結果の分析・検証から私が強く思ったことは、「協同労働の現場が、世代を超えて誰もが尊厳を持って働きたいと思える、人に優しい職場であってほしい」の一言に尽きる。たとえば、職場で個人的な生活の困りごとを「相談していない」、心の健康状態として「孤独を感じる」といった回答が少なからずあった。悩みや不安をもつ仲間寄り添って暖かく思いを受容できる「よろず相談」の窓口を本部や事業本部に設ける必要を感じる。こうした具体的な解決の糸口をアンケートの回答から見出すことが可能であると思う。

また、「入団した理由」と「働き続ける理由」を質問しているが、その回答から、協同労働の理念への賛同、社会貢献の意識が、入団時よりも働き続けることで高まっているという結果がでてくる。なぜこのような意識の変化が、ワーカーズコープで働くことで生まれているのか

今後の議論の発端になれば幸いである。

「みんなのおうち構想」や労働者協同組合法に関しては、アンケート結果からはまだまだ十分には理解されているとは言いがたいので、事業本部レベルで法律施行前に学習会の開催計画、当該自治体や地域に向けたフォーラムや説明会の旺盛な実施を呼びかけたい。

今回「協同の発見」誌で「組合員の暮らしと仕事に関するアンケート」報告を掲載していただくことになった。この報告内容をもとに「報告書」を冊子にまとめ、ワーカーズコープの事業所に配布することを計画しているので、ぜひとも様々な場面で活用していただきたいと思う。また、法制定直前のワーカーズコープ組合員の実像の記録として後世との比較材料となればと願う。

最後に、コロナの感染が拡大しなかなか収束が見えない中で、多忙にもかかわらず、このアンケート調査の企画・実施のために集まっていたいただいた評価検討委員会メンバーには労いの思いを、そして監修としてご指導をいただいた大高教授には感謝の気持ちをこの書面をお借りしてお伝えしたい。